目　次
1面　千葉市 PTA 連絡協議会　創立 70 周年記念式典
　　記念講演の概要　教育評論家　親野　智可等氏
2面　第 54 回日本 PTA 関東ブロック研究大会 山梨大会開催
　　第 70 回日本 PTA 全国研究大会山形大会開催
　　第 77 回指定都市情報交換会さいたま市大会開催
　　知ろう！話そう！ PTA ！2022
3面　令和5年新年情報交換会
4面　第 43 回市 P 連バレーボール大会
5面　区 P 連この 1 年を振り返って
6面　各学校の PTA 活動を応援しています
　　令和 4 年度表彰　おめでとうございます
　　神谷市長へ教育予算拡充を要望
　　～子どもたちの豊かな未来のために～
　　編集後記

市P連 ちば CHIBA

ホームページ　千葉市PTA連絡協議会　検索

第 82 号
令和５年３月２日発行
発 行
千葉市ＰＴＡ連絡協議会
〒260-0026 千葉市中央区千葉港 2-1
千葉中央コミュニティーセンター５Ｆ
ＴＥＬ　０４３-２４５-５８６３
印 刷　㈱　集　賛　舎

千葉市ＰＴＡ連絡協議会 創立70周年記念式典

令和４年10月19日（水）千葉市民会館大ホールにて千葉市ＰＴＡ連絡協議会創立70周年記念式典が開催されました。今年度は創立70周年のため、例年行われている研究大会にかわり記念式典が行われました。また新型コロナウィルス感染症の拡大防止のため、入場の際の消毒・マスク着用・座席をひとつ以上開けて着席などご不便をおかけしました。式典に先立ちアトラクション「荒川知子とファミリーアンサンブル」の皆様によるミニコンサートが行われました。知子さんのリコーダー・お父様のフルート・お母様のピアノと三者一体の素晴らしい演奏を短い時間でしたが堪能することができました。リコーダーでは難しい高音パートがとてもきれいで心に響きました。最後は会場全体で手拍子をしながら演奏に聞き入っていました。

記念式典では、国歌及びＰＴＡの歌の清聴のあとに主催者の三谷会長より挨拶がありました。挨拶の冒頭では「市Ｐ連が70周年を迎えることが出来たのは、区Ｐ連および単位ＰＴＡ、そしてなにより今まで活動に心血を注いでこられた諸先輩方の尽力の積み重ねのおかげであります。」との感謝の言葉が伝えられました。そして「現在、単位ＰＴＡにおいてウェブでの役員会や理事会等などの開催、ＳＮＳにおける情報交換が根付いたことは、コロナ禍がきっかけですが、負担の少ない新しい形のＰＴＡへの変化が求められています。そうした時代の節目であると考えており、市Ｐ連としてもその変化に目を向けた改革が不可欠です。」と語りました。「その改革の一歩として、各種事業のオンライン化・ホームページの充実・ＰＴＡ活動のための動画やパンフレットの作成を市Ｐ連として近年行ってきており、それと同時に『ＰＴＡは子どもたちの応援団』という市Ｐ連のスローガンの原点に戻り、子どもたちの為に今何ができるのかを考えて、単位ＰＴＡとその会員ひとりひとりにしっかりと寄り添い、市Ｐ連の進むべき道を見定めていきたいです。」との強い決意を参加者に伝えました。続いて、千葉市長の神谷俊一様をはじめ来賓の皆様より祝辞をいただきました。その後、60周年以降ＰＴＡ活動にご尽力いただいた皆様へ感謝状が贈呈されました。

記念講演は親野智可等氏による、「親力で決まる子どもの将来　子どもを伸ばす親力とは？　～『叱らないしつけ』と『楽しみながら子どもの育ち方・考え方に大きな影響があるとお話しされました。

記念講演の概要

親力で決まる子どもの将来　子どもを伸ばす親力とは？
～「叱らないしつけ」と「楽しみながら子どもの人間力と学力を伸ばすには」～

教育評論家　親野　智可等氏

親野さんは著名な教育評論家で、公立小学校の教員を退職後、その経験を生かして全国の学校関係者や保護者を対象に教育講演会を行っています。今回の講演では、親が子どもとどのように関わっていくと親子関係が良くなり、子どもが自己肯定感を持ち成長していくことが出来るかという「親力」の大切さについてお話してくれました。

●親はわが子へ愛情たくさん持っているが、愛情が空回り

親は、わが子に対して愛情を持っているが、それが空回りしている人が大多数である。

親は子どもに対して「こうなって欲しい」「こういうことが出来るようになって欲しい」などの願い（欲）があり、その欲のために、子どもにして欲しくない事が目につき、否定的に叱る事が多くなってしまう。この否定的な言葉が子どもに対して与える影響はものすごく大きい。

●親の否定的な言葉が子どもに与える影響

①自分に自信が持てなくなる
・自己否定感が強い。→自己イメージが悪くなる。
・自己肯定感があるかないか→生まれつきの場合もあるが、親や先生からの言葉が大事

②親に愛されていないのではないかという　愛情不足感
　否定的な言葉ばかり言われていると、親に愛されているかどうか疑問に思ってしまう。
　親に自分が大切にされているか確認したくて、色々と親に対して確認行動（良からぬこと）をしてしまう。
⇒親子関係が崩壊してしまう。親子関係の不信から人間不信になる。
　それを回避するために、工夫で乗り越える。

●どのような工夫が親には必要なのか？

①方法の工夫
合理的でやりやすい方法を子どもに提示する。
１.次にやることを見える化する。　２.一週間続ける。
３.できたらほめる。
叱らなくても良い方法で工夫する
※「模擬時計」「おしたくボード」⇒検索してみてください。

②言葉の工夫→・否定的な要素を入れない、相手を咎めない
～するといいよ。　～してくれるとうれしいな。
→言語化してほめる。　部分に注目して、たくさんほめる。
・共感を大事にする。　気持ちを処理してあげる。

●工夫しても変わらないこともある

では、どうして子どもは変わらないのか？子どものうちなら治るは迷信。

①自己改造へのモチベーションがない
　子どもは、将来のことを何も考えていない。「今」を一生懸命、だからかわいい。

②生まれつきの資質・だらしなく産まれた（クリエーティブ能力が高い人が多い）
子どもがサボってるわけではない。親のしつけが悪いわけではない。

●では、なぜ工夫するのか？

自分のために工夫してくれる親を大好きになり、工夫することは大事だとわかる。

何かうまくいかない時は、工夫して乗り越えていく事が大事だと学ぶ。工夫せず叱ってばかりいれば、何かうまくいかないときは、なにか正当な理由があれば相手を咎めていいと学び、否定の暴力的な言葉と行動をすぐに真似してしまうので特に注意が必要。

なので、叱るのは極力避け、合理的な工夫をする。うまくいかないときは、あきらめて、手伝う・やってあげる。そうすることで、親も子ども気持ちが安らかになる。自己肯定感も高まる。（子どもを１人の人間としてリスペクトして、叱らない）

・子どものうちに直すのは難しい。大人になってからできる。できないことはやってあげる。
・親子関係と自己肯定感が大事。しつけや勉強を最優先してはいけない。
・地頭を良くする。子どもの人生、子どもの好きな事をさせる⇒頭の性能を上げる

●これらを基に最後に「ゲームについて」

子どもにとって楽しい、大事なもの。しかし、親が理解してくれない。そうすると子どもは孤独な状態になる。（アルコール依存と同じ状態）良くない。どうしたらよいか？

まず、①ゲームを通して親子で歩み寄る・共感的に　②小出しに心配なことを相手に伝える。③共感的･民主的な対話でルールを作る。決まったことは、明文化する。子どもをリスペクトしながら。

この共感的・民主的な対話は、将来子どもに難しい課題が出てきても親は一緒に考えてくれるという、子どもの財産・宝になる。

～ Twitter や Instagram も是非ご覧ください。

第54回

日本PTA関東ブロック研究大会　山梨大会開催

令和4年10月15日（土）～16日（日）、山梨県において第54回日本PTA関東ブロック研究大会山梨大会が開催されました。2000人規模での大会は4年ぶりとなり、

「みんなで生きる みんなで育つ～この甲斐（会）から発信 子どもと大人 共に歩み 共に考え 共に創る～」を大会スローガンとして、初日は分科会が7会場（南アルプス市、甲州市、甲府市、富士吉田市、市川三郷町、都留市、北杜市）において開催され、関東ブロックに所属するPTA協議会の代表が、それぞれの活動についての発表をおこないました。

千葉市PTA連絡協議会は、第3分科会において、特別委員会の三谷会長、杉本さん、泉さんの3名が「PTA紹介動画作成」など、各学校のPTA活動を充実させるために役立つコンテンツを作成してきたことについて提案しました。

PTA紹介動画の作成については、苦労した点や工夫したこと、反響という3点を中心に説明をおこないました。役員用ハンドBOOKの作成では、上記紹介動画と共に加入校に配布された役員用の小冊子の紹介、作成の経緯や使い方などの説明をおこないました。

また、FAQ動画では、PTAのみなさんが実際にお困りになっていることを選び出したこと、作成にあたり気をつけたことや工夫したこと、今後の展開という3点を中心に説明をおこないました。

発表後には聞いていた方々からの多くの質問もあり、千葉市PTA連絡協議会の取組みに対して、全国からの注目も更に高くなったと実感できるものとなりました。

講演ではシンガーソングライターであり、山梨大使、Jリーグ所属の地元サッカークラブ、ヴァンフォーレ甲府の後援会長も務める神部冬馬氏が、ご自身がPTA役員になったきっかけやその経験を、歌と共にお話しくださいました。講演テーマである「歌は世代を超えた共通言語」を肌で感じることができ、充実した分科会となりました。

大会2日目は河口湖ステラシアターにて全体会がおこなわれました。開会式では演舞団体「甲斐◇風林火山」メンバーによる甲斐の国にちなんだ素晴らしい演舞が披露され、記念講演では2015年にノーベル医学・生理学賞を受賞された大村智博士の【私の科学と社会貢献】をテーマとした、科学を身近に感じられる貴重なお話しを聴くことができました。

今大会は関東ブロックにおける様々な活動を知ることができ、子どもたちへの強い想いを感じられる有意義な時間となったと思います。また千葉市PTA連絡協議会として、主催の関東ブロックPTA協議会および主管の山梨県PTA協議会メンバーの情熱や細かい心遣いに感銘を受け、今後の活動の見本として活かしていきたいと強く感じました。

当日の様子は期間限定ではありますが、千葉市PTA連絡協議会ホームページおよび関東ブロック研究大会山梨大会ホームページでもご覧いただけます。是非ご覧いただき、PTA活動に活かしていただければと思います。

第70回

日本PTA全国研究大会　山形大会開催

第70回日本PTA全国研究大会山形大会が山形市を中心に山形県内各地を会場として開催されました。「人とひととのつながりを体験しよう！ ～あがらっしゃい精神の山形から～」をスローガンに3年ぶりとなる対面での全国大会。コロナ過により、人とのつながりが希薄な状況の中、「人とひととのつながり」を大切にして、取り組まれました。

千葉市P連からは三谷会長他3名が参加しました。

1日目は特別第2分科会「メディア・リテラシー育成における学校教育と家庭の役割」に参加しました。また2日目は全体会記念講演・記念演奏会。指揮者 飯森範親氏による「一本のタクトは、人のこころを豊かに幸せにするアイテム」と題しての講演。そして、山形交響楽団の演奏があり、会場の一体感を高める音楽の力に感動し、人とひととのつながりを体験できる素晴らしい時間でした。

貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

（副会長 江波戸正子）

第77回

指定都市情報交換会　さいたま市大会開催

第77回指定都市情報交換会さいたま市大会が「これからの時代のPTAを考えよう！ ～すべては子どもたちの笑顔のために～」をテーマに、開催されました。

千葉市P連からは4名が参加しました。

1日目は、第1分科会 組織・運営「PTAの任意加入について」、第2分科会 地域連携「コミュニティスクール」、第3分科会 成人教育活動「教員の働き方改革への対応」、第4分科会 広報・情報活動「PTA活動とICT」といった分科会があり、私は第3分科会に参加しました。

多忙を極める先生方の働き方改革が進められる中、学校・先生方とのつながりの問題点や保護者の意識改革の必要性など積極的に情報交換が行われました。

2日目は、バドミントン元日本代表の潮田玲子さんによる記念講演がありました。生い立ちから選手時代の経験を踏まえた「挫折からの立ち直り方」や「お母様がしてくれたこと」などお聞きし、子育てに通じる学びがありました。

（副会長 江波戸正子）

知ろう！話そう！PTA！2022

千葉市中央区の千葉市生涯学習センターにて令和4年6月17日（金）～18日（土）の2日間にわたり、「知ろう！ 話そう！PTA！2022」が開催されました。令和2年はコロナの影響で中止、令和3年はオンライン開催となったため、対面での開催は3年ぶりとなりました。

主催者の千葉市生涯学習センターの大井所長、千葉市PTA連絡協議会の三谷会長の挨拶のあと、参加者は各グループにわかれ、①コロナ禍で、どのようなPTA活動をしているのか、②単Pへの加入申し込みはどうしているか、未加入者への対応はどうしているか、③単Pの組織や活動の見直しはしているのか、の3点についての意見交換をおこないました。

コロナ禍においてPTA活動に不安や悩みを抱える方が多くなるなか、他校での取組みやアイディアを聞くことができる貴重な機会ということで、参加人数は延べ66名、参加学校数は26校と、関心の高いイベントとなりました。多くのPTAが加入する市P連の良さが活かせるこうしたイベントを今後も開催してまいります。

SOMPO JAPAN

千葉市PTA小・中学生総合補償制度（傷害総合保険）

☆自転車事故はもちろん、日常生活でのケガや病気（注）を24時間補償（注）ケガ+病気コースにご加入の方のみ対象となります。
☆熱中症、O-157にも対応した充実した補償内容（注）ケガ+病気コースにご加入の方のみ対象となります。
☆個人賠償責任（国内外補償）お子様ご本人とご家族が対象

※このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または千葉中央支社までお問い合わせください。

お問い合わせ先　ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ 0120-882-774（受付時間：平日午前9時から午後5時まで）

【取扱幹事代理店】
損保ジャパンパートナーズ株式会社
〒260-0028 千葉県千葉市中央区新町18-10

【引受保険会社】
損害保険ジャパン株式会社 千葉支店千葉中央支社
〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港8-4

©JAPAN-DA

千葉市ＰＴＡ連絡協議会
令和５年新年情報交換会

令和5年新年情報交換会は、令和5年1月28日（土）東京ベイ幕張ホールにて、千葉市長の神谷俊一様、千葉市教育委員会教育長の磯野和美様を来賓としてお迎えし、総勢170余名で盛大に開催されました。今年度はコロナ禍のため懇親会は取りやめとなり、その代わりに特別講演会が計画されました。

開会に際して千葉市ＰＴＡ連絡協議会の三谷会長があいさつし「3年ぶりに対面での開催ができて大変うれしい。戻りつつある日常の中で、ＰＴＡ活動を時代に沿った形に変革し、子どもたちの今と未来を見据えて、大人たちがどのように関われるのかが問われている。強い危機意識を持って取り組んでいきたい」と述べました。

特別講演

最初に、お招きした講師による特別講演が行われました。

講師：ＮＰＯ法人
千葉こども家庭支援センター
理事長　杉本　景子氏

演題：ＨＳＣ
（Highly Sensitive Child）
理解を通して子ども達のサポートを考える
～５人に１人はＨＳＣ（思慮深く刺激に敏感な子ども）～

講演では、ＨＳＣの特性や、ＨＳＣが日常生活と学校生活で感じること、そして安心して、幸せを感じながら成長するために必要なサポートについて説明いただきました。

ＨＳＣとはなにか？

ＨＳＰはアメリカの心理学者エレインＮアーロン博士が１９９６年に提唱した概念で、障害ではなく性格の基礎となる先天的な気質です。ＨＳＰは全般の人（Person）を指す場合、ＨＳＣは子ども（Child）を指す場合にそれぞれ用います。男女を問わず人口の15～20％存在するとされています。つまり、元気いっぱいでチャレンジ精神旺盛な子どもたちがいる一方で、５人に１人は、控えめで思慮深い子どもたちが存在するということです。

ＨＳＣの特徴として四つの判断軸があります。全て当てはまりますか？

□深く処理する
・思慮深い
・浅い話には興味がわかない
・調べてから提案する
・根拠をもって言動する
・他人への影響を気にする
・トラブルを想定する
・「まあいいか」は苦手
・大人びている
・モラルを内面化している
・常に考え事をしている
・試行錯誤を繰り返す

□過剰に刺激を受けやすい
・光　音　におい　味　触感　暑さ　寒さ　空腹　のどの渇き　痛み　気圧　に敏感
・気になる刺激の例　すきま風　バックミュージックの音量　貧乏ゆすり
・苦手な刺激　花火の音　たばこの煙　残酷なニュース　暴力的な番組　いさかい　叱責

□全体的に感情の反応が強く、特に共感力が高い
・怒られている人を見るのがつらい
・誰かが困っていないか心配
・喜んでいる人がいるととても嬉しい
・弱い立場の人に特に優しい
・泣いている人を見ると泣いてしまう
・いい話にとても感動する

□ささいな刺激を察知する
・物の配置の変化
・地震の前触れ
・不穏な空気
・人の体調や気持ちの変化
・カフェインや薬
・イライラしている人

ＨＳＣはとても思慮深く控え目で、人の気持ちに敏感です。また穏やかでモラルが保たれている環境を求めます。学校では、外向的・活動的で堂々と大きな声で意見を言える子どもが評価されがちですが、ＨＳＣは積極性がないように見えても、思慮深く控えめに協調性や共感性を発揮してクラスに貢献しているのです。動物の世界にも同じ割合でＨＳＣが存在することは、社会にとって不可欠な存在であることの証明なのかもしれません。ですから、ＨＳＣを「変える」のではなく、よい点を「伸ばす」ことが大切です。この子どもたちの良さがより一層理解され、感謝され、発揮される環境があれば、ＨＳＣは社会の幸福に計り知れない貢献をすることができるのです。

支え方のヒント

①失敗して学ばせるより多く準備させて成功させる
②緊張感を与えるのではなく緊張を和らげる
③思いやりに溢れた安全な環境で育てる

お互いを認め合い、刺激に敏感な子どもたちが消極的とか心配性というレッテルを貼られることなく素晴らしい力を発揮できるような支え方を心得ていきましょう。

参加者の声から

この講演で初めてＨＳＣのことを知りました。それは生まれ持った気質であり、何も特別なものではないということ、だから私たちが理解し共感していくことが何より大切なのだと強く思いました。先生の「理解される喜びと理解する喜び」という言葉がとても印象に残りました。私にとっても理解する一歩となりました。

娘も、そして自分自身もＨＳＣかなと思い当たる部分があり、涙が出そうでした。もっと早くお聞きしたかったです。親も教師と協力して、生きづらさを感じている子どもたちに寄り添い、心優しい子どもたちが追い詰められて苦しむことがないように、支援していきたいと思いました。

スペシャル・トーク

その後、杉本氏と神谷市長、千葉市養護教育センター所長の久保木修氏により「子どもたちの明るい未来に向かって『私たちにできること』」という主題のもとにスペシャル・トークが行われました。

冒頭では、皆さまそれぞれに、自分がどんな子どもだったか、どんな思いを抱え、経験をして育ったかを楽しく話してくださいました。

久保木修氏

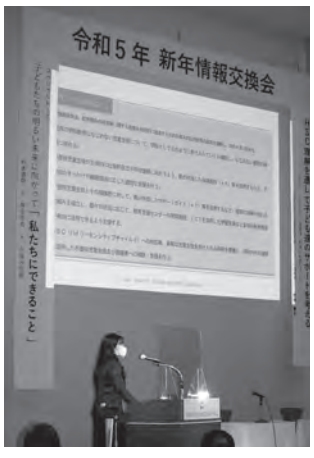
特別学級などのサポートをしています。文科省の報告によると現在児童の８・８％が何らかの発達障害の問題を抱えており、ＨＳＣが15％から20％いる、さらに身体や家庭の問題を抱える子どもたちがいる、とすると、これまでの画一的教育はもう通用しない。まず個別最適な学びを実現し、そこに多様性を融合するような共同的学びを加えなければなりません。

神谷市長

まったくその通りです。残念ながら、今は個別最適な学びを実現するには教師が忙しすぎる。また教育に関わる志を持った人材が集まりにくくなっている。過去は20倍近くあった教員試験の倍率が今は2倍ほどしかない。その現状に対応すべく、市政では予算を組んで、教師をＩＴＣや専門教科でサポートする体制整備に取り組んでいる。それぞれが多様な意見を自由に表明しつつ共通の考えをまとめていく、そんな教育環境の整備が大切だと考えています。

杉本景子氏

子どもたちは先生のことをとてもよく観察しているので、先生自身が心にゆとりを持てる環境が大切。また子どもたちは「助けて」と言いづらいから、親や先生が「助けて」と言っている姿を見せることがとても大切。そのためには行政と教育現場、ＰＴＡや地域社会を巻き込んだ取り組みが求められます。非常に大きな問題だが、すぐに解決できなくても、とにかくみんなで話し合うことをやめてはいけない、あきらめてはいけないですね。



情報交換

ここ３年間、コロナ禍のため、通常通りのＰＴＡ活動は困難でした。そのなかで、ＰＴＡ活動の在り方を見直す動きが見られます。ＳＮＳを活用してより効率的に活動しようという動き、様々な制限があるなかでも、子どもたちに役立つ活動を少しでも実施しようという動き。単位ＰＴＡでどのような工夫をしながら会議やイベントを開催し、活動を継続してきたのかを報告し、さらに、今後どのような方向性で活動に取り組んでいこうとしているのか、《これからのＰＴＡ活動が進む方向》をテーマとして、17のグループに分かれて話し合いを行いました。様々な貴重な意見が出されましたが、その一部を紹介します。

特別講話は同時配信されました。見逃された方は是非こちらからご視聴ください。

コロナ禍でのＰＴＡ活動にどのように取り組んだか。

学校としては、ＰＴＡが先手を打って予算を組み、バスの増便、温度計や消毒液の購入などを手配してくれたので大変助かった。ＰＴＡとしては、連絡ツールとしてＺｏｏｍやＬｉｎｅｗｏｒｋｓなどの活用が進み、オンラインイベントも実施した。また、バザー部、広報部、総務部などの部門分けをなくし、必要な作業はできる人で臨機応変に担当する、という形に切り変えたことで組織が良く機能した、という事例もあった。

これからのＰＴＡ活動はどのように進めていけばよいか。

これまでは単に前年の活動を引継いでいた。また活動は足し算的に増えていた。今回活動が３年止まったことで、引継ぎがなく経験者不在になった活動もある。児童数の減少、ほぼすべての親が仕事持ち、先生たちにも余裕がない、という現状もあるなかで、活動を縮小、簡素化しつつも同様の効果をあげるにはどうすればよいかを改めて考えるべきではないか。（例えば、学校行事のサポートを主に活動する、バザーなどのイベントを独自に主催することはやめ、その代りに地域のお祭りのような活動に積極的に参加する等）また、子育てを終えて余裕があり、母校の活動を手伝いたいというＯＢやＯＧたちに助けてもらえないか。いったんリセットして、活動の意義や目的、方法を改めて考えるまたとないチャンスではないか。

日頃の悩み

役員の選出方法、各会員への負担が大きいこと、非会員の増加にどのように対応するか。子どもたちのために、という気持ちはすべての親が持っている。

（結び）

ここでご紹介できるのはごく一部ですが、他にもいろいろな意見があり、非常に学びの多い情報交換会となりました。社会の変化と多様化が進む中、コロナ禍によって様々な問題が顕在化しています。子どもたちの今と未来のために、今何ができるのか、行政や教職員、ＰＴＡや地域社会が一体となって衆知を集め、これからもより良い方法を模索し続けたいと思います。

第43回 市P連バレーボール大会

決勝トーナメント

優勝

- 誉田中（第3位）
- 千城台南中（第2位）
- 千草台小（敢闘賞）
- 新宿小（優勝）

◆各区からの代表チーム
花見川区　花園中学校
花見川中学校
稲毛区　千草台小学校
轟町中学校
中央区　新宿小学校
松ケ丘中学校
若葉区　大宮中学校
千城台南中学校
緑区　土気中学校
誉田中学校

優勝　新宿小学校

2位　千城台南中学校

3位　誉田中学校

敢闘賞　千草台小学校

令和4年11月26日（土）、東金アリーナにて第43回千葉市PTA連絡協議会バレーボール大会が開催されました。各区の予選を勝ち上がった学校は別表の通りです。

開会式は千葉市P連の三谷会長からの挨拶、千葉市教育委員会の土肥様からのご挨拶、前回優勝校の松ケ丘中学校から優勝トロフィーの返還と続き、誉田中学校による選手宣誓がおこなわれました。選手宣誓は、ユーモアで会場を盛り上げながらも「スポーツマンシップにのっとり、正しく和気あいあいと！でも全力で戦うことを誓います！」という力強い宣言があり、3年ぶりに開催される今大会への強い想いが会場の人々にも伝わりました。

予選リーグは2コートに分かれ、各コート総当たりでの試合がおこなわれました。各区上位校による熱い予選リーグの結果、新宿小学校（第1コート1位）、千城台南中学校（第2コート1位）、誉田中学校（第1コート2位）、千草台小学校（第2コート2位）の4校が決勝トーナメントに駒を進めました。

決勝トーナメントにおいても各校、チームワークを生かしたラリーがおこなわれ、一進一退の戦いが繰り広げられました。決勝戦では各コートを1位で通過した新宿小学校と千城台南中学校の直接対決がおこなわれ、激闘の結果、第43回千葉市PTA連絡協議会バレーボール大会の優勝校は中央区の新宿小学校となりました。

3年ぶりとなった今大会。コロナ禍において練習の制限やメンバー募集も難しい状況の学校もあるなか、各校のバレーボール部員の熱い気持ちがぶつかる感動的な大会となりました。試合中はどのチームもお互いに声を掛け合い、仲間をフォローする姿が印象的でした。また、部員だけでなく、応援に来ていただいた仲間の声援もあり、PTAバレーボール大会の素晴らしさを実感できた一日となりました。

今後も市P連では、皆様の情熱やご期待にお答えできるよう、状況に対応する形で開催を続けていきたいと思っております。

ご興味がある方は是非各校バレーボール部へのお問い合わせ、ご参加をお願いいたします。

＊　若葉区Ｐ連会長　佐々木　智久　＊

今年度、若葉区Ｐの当番校として、若葉区内の各学校のＰＴＡ役員の方と交流させていただきましたが、学校ごとに色々な事情や様々な問題を抱えておりました。しかし、そうした学校単位では解決することが難しい問題も、理事会では他校と情報交換を行うことができ、理事会が貴重な問題解決の場として機能しているように見受けられました。ここ数年、コロナ禍により自粛されてきたＰＴＡ活動も、再開に伴い様々な問題が出てくると思いますので、各校の役員の皆様には理事会を問題解決の場として有効に活用していただければと思います。最後になりますが、市Ｐ及び区Ｐの役員の皆様1年間、ありがとうございました。

＊　中央区Ｐ連会長　萩原　利彦　＊

コロナ禍の中、ほとんどのイベントが中止となり、ＰＴＡの連携も薄くなってしまっていましたが、今年度は中央区バレーボール大会に21校もの小中学校の皆さんが参加してくださいました。まだまだ先の見通しが立たない状況ではありますが、コロナ禍前のような状態に戻すために、少しずつでもイベントを催せるようになると、ＰＴＡの連携も深められるのではないかなと思います。

何よりも子ども達はもちろん、先生方、保護者の皆様がより過ごしやすい環境になっていければと思います。

一年間区Ｐ連活動に携わってくださった方々、有難うございました。

＊　稲毛区Ｐ連会長　井口　万里子　＊

今年度は、コロナ禍からの脱却というムードの中、稲毛区Ｐ連でも3年ぶりにバレーボール大会を開催しました。多くの保護者の皆様、先生方にご参加いただき、真剣勝負を通じて交流していただけたことはとても嬉しく思います。

一方、コロナ禍を機に単位ＰＴＡの改革に取り組まれているという事例を多数聞かせていただきました。それを受けまして、稲毛区Ｐ連においても、職務内容の簡素化を検討いたしました。

今後、区Ｐ連がより身近でわかりやすい組織となり、単位ＰＴＡの皆様と市Ｐ連を繋ぐ役割を果たしていただけたらと願っております。

区Ｐ連　この1年を振り返って

＊　花見川区Ｐ連会長　石川　譲司　＊

今年はコロナ禍も続いている中、3年振りのＰＴＡバレーボール大会や市Ｐ連創立70周年記念式典など大きな行事が開催されました。コロナ禍での大会運営は大変なものでした。開催の中止延期の判断や感染対策をどのようにするかなど思考錯誤の連続でした。そんな状況でも無事に開催し大成功できたのは、お手伝いをして頂いたＰＴＡ会員や役員、ＰＴＡＯＢ、他校のＰＴＡなど様々な方のご協力があったからだと思います。ＰＴＡ活動を通して「人との繋がり」「助け合い」「集まって楽しむ」ことの大切さを改めて実感した一年間でした。

このような経験をさせて頂き、ありがとうございました。

＊　緑区Ｐ連会長　早井　大輔　＊

今年度は緑区Ｐ連の会長という大きな役割を担い、行動制限が緩和される中、各行事をどのような方法で実施できるのかと不安だらけでスタートしました。その中で、加盟校の各会長さんや区Ｐ連事務局のご協力もあり、規模を縮小してですが、バレーボール大会やふるさと祭りのペットボトルロケットを無事実施することが出来ました。今後に向けた大きな一歩を踏み出せた事に喜びを感じています。

この1年間の活動を通じて、準備する事の大切さを改めて実感しました。この経験を活かして、来年度はサポートしていきたいと思います。1年間ありがとうございました。

＊　美浜区Ｐ連会長　根岸　里佳　＊

思い起こせば1年前、市Ｐ連や区Ｐ連の存在も知らなかった私ですが、市Ｐ連会長さんや事務局長さんが学校に出向きレクチャーしてくださったお陰で少しずつ理解し見聞を広めることができました。

今年度は市Ｐ連創立70周年記念ということで懇親会に参加させて頂き、歴代ＯＢの方々や各区の皆さまと楽しく交流を持てたことも大変嬉しく存じております。

最後になりましたが、次年度の市Ｐ連の更なる発展を期待、祈願しましてご挨拶とさせて頂きます。

1年間お世話になり本当にありがとうございました。

「小・中学生総合生活保障制度」

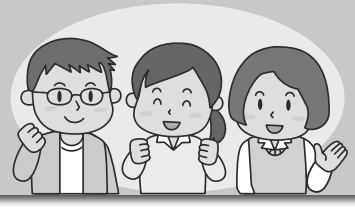
（こども総合保険・自転車総合保険）

小・中学生総合生活保障制度は、千葉市PTA連絡協議会会員の皆様を対象とした制度として、多くの方々に加入いただいています。ご不明な点があれば、お気軽にお問い合わせください。

引受保険会社　AIG損害保険株式会社 千葉支店　☎043-350-3170

千葉市美浜区中瀬2-6-1　WBGマリブイースト20F（営業時間　9:00～17:00 土・日・祝日・年末年始を除く）

推薦　千葉市PTA連絡協議会



各学校のＰＴＡ活動を応援しています

市Ｐ連ホームページをご活用ください

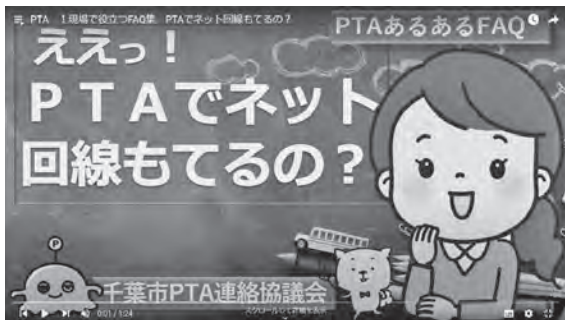
http://chiba-city-pta.jp/

みなさん、市Ｐ連のホームページをご覧になったことはあるでしょうか。「千葉市ＰＴＡ連絡協議会」で検索をかけていただくか、上記のアドレスを入力していただくか、ＱＲコードを読み込んでいただければ、ご覧にいただくことができます。

市Ｐ連のホームページは、各学校のＰＴＡ活動が充実できるように、随時更新しておりますし、お役に立つコンテンツも徐々に増やしております。

現場で役立つＦＡＱ集

まず、ご紹介したいのは、市Ｐ連ホームページ上部の「ＰＴＡお役立ち集」の中にあります「現場で役立つＦＡＱ集」です。



このコンテンツは、現場でお困りになっている具体的な事例について、キャラクターを使ってわかりやすい動画にしてお答えしたもので、現在６本がアップロードされています。「ＰＴＡでネット回線もてるの？」「ＰＴＡ会費ってどう集めてるの？」など、身近にある問題ばかり集めていますので、きっとご参考になると思います。

ＰＴＡってな～に？

次に、ご紹介したいのは、ホームページ右側の「ピックアップ記事」にあります「ＰＴＡってな～に？」です。

このコンテンツは、新入生保護者説明会や就学時検診の待ち時間、新役員の研修などで、ＰＴＡを紹介する際に、ご活用できるように作成した動画です。ＰＴＡの役割やメリット、活動内容、会費の使われ方などを７分にまとめてあります。ＤＶＤにして各学校に配布もしていますので、そちらをご活用いただくこともできます。

その他

そのほかに、安全互助会や子ども総合保障制度のしくみを説明したページや申請書のダウンロードなど、保険関係のコンテンツも充実させています。

また、市Ｐ連の開催行事をご報告する記事や他県市のＰＴＡ協議会へのリンクなども増やしているところです。

令和４年度表彰　おめでとうございます

（公社）日本ＰＴＡ全国協議会　年次表彰

11月18日（金）、都内ホテルにて、令和４年度の日本ＰＴＡ全国協議会による年次表彰式がありました。千葉市からは、新たな視点でＰＴＡ活動をとらえ直し、ＰＴＡの組織づくりに取り組んだ千葉市立桜木小学校ＰＴＡが、会長表彰（団体）を受賞されました。

また、ＰＴＡ活動への長年の功績により、日本ＰＴＡ会長表彰（個人）を髙嶋輝生さん（前市Ｐ連副会長）、西川由起子さん（花園小・前市Ｐ連副会長）が受賞されました。

（以下敬称略）

・日本ＰＴＡ会長表彰（団体）

千葉市立桜木小学校ＰＴＡ

・日本ＰＴＡ会長表彰（個人）

髙嶋　輝生
西川　由起子

千葉市社会教育功労者顕彰

12月３日（土）、千葉市生涯学習センター大ホールにて、令和４年度千葉市社会教育功労者顕彰授与式が開催されました。市Ｐ連からは、長年にわたり地域と連携し、校内外において広くＰＴＡ活動を推進し、青少年の育成に尽力された功績で、次の方々が受賞されました。

（以下敬称略・順不同）

居川　恵子（星久喜小）
石井　祐路（花見川中）
尾座元　美枝子（登戸小）
亀石　友美（花見川中）
静谷　知美（源小）
能勢　康章（横戸小）
渡邊　輝子（生浜中）
桑原　瞳（松ケ丘中）

神谷市長へ教育予算拡充を要望

～子どもたちの豊かな未来のために～

11月22日（火）、市Ｐ連の三谷会長が子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体千葉市連絡会14団体の代表の皆さんとともに、市役所を訪問し、神谷俊一市長に教育予算拡充を要望する署名を手渡しました。

署名は、９月に単位ＰＴＡの皆様にお願いし、市Ｐ連事務局で集約したものです。

三谷会長から市長へ、日頃から市Ｐ連の活動に深いご理解をいただいている感謝とともに、更なる教育環境整備を要望いたしました。

市長に要望した主な内容は、以下のようなものです。

・学校における新型コロナウイルス感染対策
・タブレットの活用に伴う人的・物的な環境整備
・部活動の地域移行に伴う外部指導員の増置
・特別な支援を要する子どもたちを支援するための人的配置の拡充　等

ＰＴＡの皆様が集めてくださった署名が大きな力となり、子どもたちが学ぶ上でより良い環境が作られていくことと思います。

編集後記

今回の82号より令和４年度広報委員がお届けいたします。

今年度は千葉市Ｐ連が創立70周年を迎えました。そして３年ぶりのバレーボール大会の開催など、withコロナの中、新たな段階へと前進する兆しを感じました。この様な転機の年について、皆様に少しでもお伝えする事ができましたら幸いです。

本紙発行にご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。今後も委員５名、一生懸命活動して参りますので、よろしくお願いいたします。